

公益財団法人 Save Earth Foundation (SEF)

2025年度事業報告

I 概況

2025年度は、各種会合においてオンライン会議を活用しつつ対面での活動を中心に事業を推進して参りました。事業を展開するにあたっては、当法人の賛助会員企業をはじめ、地方自治体、学識経験者と積極的に連携を図りました。

資源循環事業では、ゼロエミッション研究会を通して、食品リサイクルループの啓発に努め、福岡市、山口市・宇部市の2地域において共同食品リサイクルループの大臣認定を取得しました。資源管理適正化支援では、管理システムであるSEF-Netの普及に努め、+179サイトとなる3,959サイトまで拡大しました。また、愛知県にて行ったコーヒー粕の高付加価値化に着目したリサイクルの実証事業を完遂後も社会実装に向け、検討会議を実施しました。ゼロエミッション研究会に参加する企業は食品関連事業者や流通小売事業者に加え、生産者、再生利用事業者（リサイクラー）、など多岐にわたり、活発な議論が行われました。

森林再生事業では本年度からは積極的にボランティアを募り、各地での森林保全活動を継続して実施いたしました。また、森林活動を通じた企業の価値化を図る勉強会である森林アカデミーを通して、新たに陸前高田市「企業等による森づくり制度」の活動に関する協定を、会員企業・団体の1社1校が企業の森活動を行うため締結いたしました。企業の森活動は陸前高田市、丹波市でそれぞれ会員企業が活動を開始しました。

II 会員・寄附の状況

(1) 会員数の状況について

会員区分	前年	当年	増減
特別賛助会員	5社	6社	+1社
団体会員	73社	81社	+8社
個人会員	7名	7名	-
資源サポーター（団体）	2社	2社	-
森林サポーター（団体）	1社	2社	+1社
資源サポーター（個人）	367名	340名	△27名
森林サポーター（個人）	1,157名	1,225名	+68名

(2) 寄附の状況について

寄附区分	前年	当年	増減
森林再生事業指定寄附	0千円	0千円	-
一般寄附・募金	1,368千円	811千円	△557千円

Ⅲ事業活動報告（公１）資源循環事業

本事業では、廃棄物の再資源化の推進と資源循環の仕組みを開発し、持続可能な循環型社会の構築に貢献することを目的として、（１）資源循環の重要性についての普及啓発活動、（２）廃棄物管理の適正化から再資源化に向けた支援、（３）それらの活動から得られる情報の分析調査研究による新たな資源循環の社会システムの開発や提案に向けた取組を推進して参りました。

（１）普及啓発

広く社会に対して地球環境保全のための資源循環の重要性を啓発し、資源循環に関わる全ての関係者の参加意識を向上することにより、循環型社会の構築に貢献することを目的とした講座を実施しました。

2025 年度ゼロエミッション研究会 開催実績

第1回	5月29日	参加者90名	@オンラインとのハイブリット
第2回	7月24日	参加者86名	@オンラインとのハイブリット
第3回	9月18日	参加者37名	名古屋視察見学会
第4回	11月20日	参加者80名	@オンラインとのハイブリット
第5回	1月29日	参加者84名	@オンラインとのハイブリット
第6回	3月19日	参加者101名	@オンラインとのハイブリット

廃棄物勉強会

11月26日 参加者15名 @香川視察見学会

（２）廃棄物管理適正化再資源化支援

排出事業者・廃棄物処理事業者に対し、法に則った適正な廃棄物処理を合理的・効率的に行うことを支援するシステムを提供しています。事業者の再資源化を実現することを目的とした支援を実施しました。

・廃棄物管理適正化支援システムの提供

実績 3,780 事業所／2025 年 3 月時点

3,959 事業所／2026 年 3 月時点

前年比 +179 事業所

- ・排出事業者、廃棄物処理事業者からの廃棄物管理に関する相談に応じ、助言及び資源循環構築の支援

実績 再生利用事業計画（食品リサイクルループ）の認定を支援
2地域2件

（３） 調査研究

適正化支援事業により集約される廃棄物に関する情報やネットワークを活用し、資源循環の観点から環境負荷の軽減に寄与する取り組みを推進するための調査研究に着手しています。前年度に引き続き、コーヒー豆かすの高付加価値リサイクルの可能性と有効性に着目した事業の検討会議を実施しました。コーヒー豆かす飼料の給餌試験に向け、会員企業とに調整を開始しました。

IV事業活動報告（公２）森林再生事業

本事業では、地球の生物たちの命の源である森林が危機的状況にある今、豊かな自然と森林資源を未来の子どもたちに残すことを目的として、（１）荒廃した民有林や公有林の管理を受託（保全協定を締結）して、それぞれの地域や森林の特性に合わせた再生活動を実施、（２）森林再生の過程において発生する木材などの森林資源の利活用を促進、（３）森林をフィールドとした環境教育の機会の提供に向けた取組を推進して参りました。

以下、地域別に報告します。

また、持続可能な循環型社会をめざし、企業が森林活動を通して果たす生物多様性・脱炭素への貢献を実践的に学ぶための勉強会として「森林アカデミー」を開催しました。

2025 年度森林アカデミー 開催実績

第1回	4月24日	参加者45名	@オンラインとのハイブリット
第2回	6月19日	参加者22名	@日向の森実地研修
第2回	6月26日～27日	参加者30名	@陸前高田の森実施研修
第3回	8月21日	参加者45名	@オンラインとのハイブリット
第4回	10月16日	参加者50名	@オンラインとのハイブリット
第5回	12月18日	参加者43名	@オンラインとのハイブリット
第6回	2月19日	参加者47名	@オンラインとのハイブリット

◆千葉県山武市（板川の森 8ha、埴谷の森 1ha、日向の森 11ha）

<概要>

山武市は、かつて良質なスギ材として有名な「サンプスギ」の産地で、木材の一大供給地として栄えたことから、現在でもスギの人工林が多く存在している。森林再生事業については、森林所有者（板川・埴谷は個人、日向の森は山武市）との保全協定に基づき、当初の計画通り活動を実施した。

<活動方針>

- ・ 持続可能性、生物多様性に配慮した再生・保全活動を実施し、森林環境教育の機会を提供する
- ・ 地域の森林資源の高付加価値化に資する再生活動を実施し、森林資源の活用方法を見出す

<2025 年度事業実施結果>

市民や企業が参加する再生活動の実施と、体験学習プログラムの提供を計画し、以下の通り実施した。

（１）森林再生活動

- ・ 4 月～翌年 3 月にかけて、個人森林サポーター参加による月 2 回の定例活動

を計画通り実施した。（23 回・225 名）

主に植樹地の下刈り（11,000 m²）、既存散策路の整備（200m）、森林整備のために除間伐（10 本）等を実施した。

- ・ 5 月には、活動方針の基盤となる、自然環境調査（植物相、動物相）を実施した。2016 年からの継続した調査で、「日向の森」内のみの植物相は 117 科 533 種の生育が確認された。昨年度調査からは 1 科 19 種が新たに確認された。また、動物相は哺乳類 5 目 9 科 10 種、両生類 2 目 5 科 6 種、爬虫類 1 目 4 科 7 種、鳥類は 10 目 26 科 50 種が確認された。

- ・ 5 月には、第 8 回みどりとふれ合う植樹会を開催した（雨のため、ワタミ社員を中心に 20 名程、ヒノキや常緑広葉樹など計 185 本を植樹）。人工林における生物多様性に配慮した整備方法を模索しており、啓発活動にもなっている。尚、本取り組みは、国土緑化推進機構の補助金事業を活用して実施した。

（２）森林資源の利活用

- ・ 当地域における協力団体が運営する「木の駅」に保全活動で生じた除間伐材を搬出した（2.31 トン）。このうちの一部はペレットとして加工さ

れ、市内で有効に利用される。

- ・国産材を活用した学校教材である「夢短冊」の制作し、都内の中高一貫校（私立）から受注し、1,400 枚納品した。

（３）環境教育

- ・郁文館夢学園より委託を受け、生徒に向けた環境教育を実施してきた。森林やその役割について学んだ後、森林の生態系の観察、特定外来植物の駆除を行い、森林や生態系の保全への理解を深めることを目的としている。次年度も継続して実施する。
- ・千葉県山武市より「千葉県山武市森林環境教育プログラム」を受託し、市内の小学生に対し、間伐や森林の生態系の観察、木材の利活用を学び、森林や生態系の保全への理解を深めることを目的としている。次年度も継続して実施する。
- ・「エシカル消費を通じた職業体験型食育プログラム」によって、子どもと企業や団体をつなぐ子どもスマイリングプロジェクトに協力し、参加した子どもたちに対し、森林保全の教育と枝打ちや除間伐の体験を実施した。

◆長野県東御市（東御の森 11ha）

＜概要＞

「東御の森」（長野県東御市 奈良原市有林）は、標高約 1000m の中山間地にあり中央に千曲川上流の一級河川が流れる溪畔林。面積の半分はカラマツ成熟人工林、半分は成熟した広葉樹主体の二次林。土砂流出防止・水源涵養（公益的機能）を目的とする。また土石流災害特別警戒区域に該当、隣接森林も保安林指定されている。

東御市が会員となる上小森林認証協議会の SGEC 認証林の一部、天然林・里山区分として持続可能な森林経営や SDG s 目標達成に貢献する管理を実施。当法人も SGEC 森林管理マニュアル（上小森林認証協議会）と東御市森林整備計画に即して、東御市（産業経済部農林課）と連携し、公益を目的とする活動を実施している。

＜活動方針＞

SGEC 森林管理マニュアル（上小森林認証協議会）と東御市森林整備計画に即し、持続可能な森林経営に貢献する活動

- ・ 生物多様性の保全
- ・ 普及啓発
- ・ 森林環境イベント（森林学習）の開催

(1) 生物多様性の保全

生物モニタリング調査・専門調査を実施し報告書を作成
巡回・調整（東御市役所、地域の関係団体等）

(2) 普及啓発

自然素材を活用する教材の工夫と開発（森林学習に活用予定）

(3) 森林環境イベント（森林学習）の開催

郁文館夢学園の生徒を対象とする森林体験プログラム（受託事業）を実施した。

◆その他地域

愛知県瀬戸市「海上の森」（愛知県県有林 2ha）

- ・ 県との協議を進め、2020 年 4 月より 3 年間の保全協定を締結。活動を着実に実施していることが愛知県から評価され、保全協定を更新し、2025 年度以降も更新した協定に基づき活動を実施している。
- 35 本間伐し、ノベルティグッズとしてカレンダーの製作をおこなった。

間伐とノベルティ追記

（活動実績）

第 1 回	4 月 2 6 日	参加者 1 9 名	散策、ベンチ制作
第 2 回	1 1 月 2 9 日	参加者 2 4 名	除伐、クラフト体験
第 3 回	1 月 2 4 日	参加者 1 4 名	森林整備、階段づくり
第 4 回	2 月 2 8 日	参加者 1 0 名	森林整備、階段づくり

兵庫県丹波市「ウッディミナミの森」

- ・ 市島南自治会が所有する森林で、3ha の保全協定を見直し、7ha 締結。会員企業と 3 者協定を締結し、2025 年度以降継続した活動を実施している。

（活動実績）

第 1 回	5 月 2 5 日	参加者 8 名	散策
第 2 回	1 0 月 7 日	参加者 5 名	いきもの調査
第 3 回	3 月 2 5 日	参加者 2 7 名	森開き、看板お披露目

大分県臼杵市「臼杵の森」（臼杵市有林 50ha）

- ・ 臼杵市と次年度以降の活動について関係性の継続を図りました。

陸前高田市での取り組み

- ・ 市が所有する森林が約 5,000ha あり、森林機能の維持増進が課題となっ

ている。今まで森林の価値は、収穫される木材への依存度が高かったが、脱炭素社会に向けて、CO2 吸収能力が最注目されている。SEF では、自治体に対し、森林クレジットの創出と販売支援に着手し、陸前高田市と連携協定を締結した。(令和 4 年度からの 3 ヶ年の計画)。本取り組みでは、森林クレジットの取引をきっかけに、森林に課題を抱える自治体と企業を繋げ、多様な主体が連携して森林再生に取り組むための機会と場を提供していく。

2025 年度、学校法人郁文館夢学園、TOPPAN 株式会社が新たに制度に参加しました。

V その他

(1) 告知・広報活動等

- ニュースレターを年 4 回発行しました。賛助会員や関係者等へのメール配信のほか、前述の各種イベント等の参加者への配布、またホームページにバックナンバーを掲載しました。
- ホームページの更新、フェイスブック公式ページへのトピック投稿を随時行い、活動状況や事業に関わる最新の動向などをより分かりやすく伝えられるよう工夫し、情報提供に努めました。
- ゼロエミッション研究会、森林アカデミーの 1 年間の活動成果をまとめた報告書を発行しました。

(2) 内閣府への報告について

- ① 「2024 年度事業報告書ならびに決算報告書」を、2025 年 6 月に提出しました。
- ② 「2026 年度事業計画書ならびに収支予算書」を、2026 年 3 月に提出しました。

VI 法人の運営体制の充実を図るための取組

当法人は、公益目的事業を適正かつ効果的に実施するとともに、法人運営の透明性及び信頼性を確保するため、以下の取組を実施しました。

(1) 理事会、評議員会等の適切な運営

- 2025 年度は、理事会を 4 回、評議員会を 2 回開催し、事業計画、事業報告、収支予算、決算その他法人運営上の重要事項について審議及び報告を行いました。
- 評議員選定委員会を 1 回開催し、定款及び関係規程に基づき、評議員の選任に係る手続を実施しました。
- 理事会を開催しない月には定例会を計 7 回開催し、各事業の進捗状況

及び課題を関係者間で共有することにより、円滑な業務執行に努めました。

2025年度の各種会合開催状況は以下のとおりです。

① 理事会 4回開催

2025年 5月26日

2025年 6月30日

2026年 1月26日

2026年 2月24日

② 評議員会 2回開催

2025年 6月20日

2026年 2月24日

③ 評議員選定委員会 1回開催

2025年 6月18日

④ 総会 1回開催

2025年10月15日

⑤ 定例会 7回開催

理事会非開催月に開催

(2) 公益目的事業の実施状況及び成果の把握

- 公益目的事業の適切な実施及び事業内容の改善につなげるため、事業ごとに活動実績及び成果の把握を行いました。
- 資源循環事業では、廃棄物管理適正化支援システムの導入事業所数、再生利用事業計画の認定支援件数、研究会等の開催回数及び参加者数等を把握しました。
- 森林再生事業では、森林再生活動の実施回数及び参加者数、森林整備面積、除間伐材の搬出量、生物モニタリング調査の結果並びに環境教育の実施状況等を把握し、事業の成果及び課題の確認に活用しました。

(3) 情報公開及び透明性の向上

- 法人の活動状況及び事業成果を広く社会に伝えるため、ニュースレターを年4回発行するとともに、ホームページ及び公式SNSを随時更新しました。
- ゼロエミッション研究会及び森林アカデミーについて、年間の活動成果を取りまとめた報告書を作成し、関係者への情報提供に努めました。

これらの取組を通じて、会員、寄附者、事業参加者その他の関係者に対する説明責任を果たし、法人運営の透明性向上に努めました。

以 上

2025年度事業報告の附属明細書

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」はない。

2026年5月

公益財団法人 Save Earth Foundation